

# 研究者の「引っ張り」と「引き止め」

IPMU 機構長

村山 斉 むらやま・ひとし

トップレベルの研究所を作るのに一番大事な要素は「人」です。前回のIPMUニュースでお伝えしましたように、外国人の研究者の比率は目指していた半分を超えました。しかしもっと大事なことは、採用した研究者の質です。ハーバード、プリンストン、マックス・プランク研究所、京都大学、ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン、パークレイ等、世界のトップの大学・研究所から来てくれているのです。

そこで周りの人たちがIPMUの研究者に目をつけはじめました。他の大学がIPMUの若い優秀な研究者を引っ張りにくるようになったのです。一人目はランクを上げることで引き止めることができました。二人目は別の大学へ移っていきました。三人目はドイツのポジションに引っ張られようとしています。世界レベルの頭脳を引っ張ってくることは大変な努力が要りますが、彼らを引き止めていくこともまた大変なことです。

「引っ張り」と「引き止め」がどんなに大変なことを一年間経験してきて、寄付を集めることがどうしても必要なことに気付きました。海外のトップの科学者たちを招待し、IPMUを自分の目で見てもらい、このポジションに就くことを真剣に考えてもらうためには、自由に使える資金が必要です。若いメンバーを引き止めるためには、やはり補助金では出来ない色々な工夫をしてあげないといけません。それから、研究者の配偶者が日本の生活で充分満足できるかどうか、気を配る必要もあります。政府から補助金をいただいてIPMUを運営しているわけですが、国民の税金から

出ているため、個人や家族のために特別な使い方をすることはできません。また、補助金は10年間しか約束されていないので、その後どうするのかという深刻な問題もあります。折角来てくれたトップの研究者たちが路頭に迷うようなことがあってはなりません。そのために基金を作っていく必要がありますが、現在と同じレベルの予算を確保するには250億円必要だという計算になってしまいます。

そして鶏と卵の問題が出てきました。資金を集めるためには、寄付を受け付けることの出来る*Friends of IPMU*財団を設立しないといけませんが、そのために人員と元手が必要です。つまりある程度の資金がまずは手元に無いと、資金集め自身が出来ないということです。

この問題に東京大学の本部が取り組んでくれるようになりました。東大のホームページから、クレジット・カードや銀行振込を使って寄付が出来るようになったのです。

<https://payment.utf.u-tokyo.ac.jp/general.html>

にアクセスしていただければ、英語でも日本語でもIPMUに寄付をすることができます。ホームページの指示に従いご入力頂き、「寄付の目的（必須）」の項目の「その他」をチェック後、下の欄にIPMUと指定して下さい。バラク・オバマのように、こうした草の根の支持による資金集めの活動が大きな力になっていくことを願っています。Yes, we can!